

19 番山口昌宏議員

山口昌宏議員／おはようございます。

登壇する前に、きょうは上野大先輩からこわがんいういかんよ、山口さん。

きょうはやさしゅういわんばというご指導をいただきまして、登壇させていただきます。そういう中で、先ほどの一般質問を見ておりましたときに武雄市議会って怖いんだなと、つくづく思いながら、心臓ばくばくでここに上がっております。

私今回、3項目にわたっての通告をさせていただいておりますが。

一般質問とは、私は武雄市議会は通告制になっていると自覚をしており、皆さんがたもそのように考えておられると思いますが、今回、いろいろな質問の中で、十数人の議員が質問をするわけですので、だぶることは多々あるかと思えます。

それは、しょうがないといえばしょうがない。

十分自覚をしながら、一般質問の通告をしています。

けれども、これは、暗黙のルールがあると思うわけです。

例えば、議員が私と誰かと誰かが、4、5人かわかりませんが、ダブってた。

そういうときには、やっぱり、執行部の皆さん方も通告の逆の立場において、誰々がこういう質問が出ておりますよ、どうしますか？

というのが通常のルールではないか。

暗黙の了解の中のルールだと思うわけですけど、まず、それについての御答弁をお願いします。

議長／宮下つながる部長。

宮下つながる部長／議会におきまして、標準会議規則というのがございます。

その規則によりますと、一般質問の通告についてと、解説がございまして、その通告の目的につきましても、質問者の数や順序の調整をしたり、答弁の準備を周到にするために事前に議長に提出することになっております。

あくまでも、通告の目的については、この解説によると、議事の整理を目的にと、一番目になっております。

ただし、議会運営を、能率的円滑におこなうために、執行部にも、臨時的に配慮する。

こういう解説がございまして。

今回、そういう通告制度の機能・役割をはっきりさせるための理解が不足しておりまして、質問者さんにご迷惑をかけたと。

常々、質問者については、その質問の準備に命をかけているということも、聞いています。こういうことで、われわれも、そういう質問者が一生懸命組み立てられているということをやっぱり配慮すべきだと思いたらなかったということで、お詫びします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これは、執行部側も十分配慮しないといけないと、思っています。

ただし、命をかけている議員さんばかりじゃないんです。

ですので、それは、部長も言い過ぎです。

私は、予算委員会に、局長の随行で出てきたときに、武雄市議会おかしいなと思ったのが、先の議員と重複するので、ここはさけます。

重複するというのは、市民も関心のあることだから、それは遠慮しないで、聞いてほしい。場合によっては、イノセさんみたいに、前の質問と、答弁が食い違うことがあるんです。そこを矛盾点で追求するのが、私はそれは良く思っていたので、どんどん省略なんかささらずに、ばんばん聞いてほしいな思いますし。

それと、全部聞いている人ってほとんどいないんです。

人気のある人は聞いていると思うけど、そうじゃない議員さんは聞いていないとかありますので。

それはその議員さんしか、ご覧にならないという方もいらっしゃるので、そこは武雄市議会の議員の良識ある皆さんにお願いがあるのは、どんどん追究していただければと思います。

ただし、部長が申し上げたとおり、われわれの部分で配慮が足りなかったことは、重ねてお詫びをしたいと思います。

議長／19番山口昌宏議員。

山口昌宏議員／もちろん、われわれ議員も、命を本当にかけていると。

今回の私の質問の通告は、通告というよりは、これは一番始めにお願いをしたんですが、9月の委員会で現場を知らずにいったときに、次の日に、12月の議会でこれをします、この案件についてしますよということを、その時点で通告しています。

そういう中での、話なので。

執行部の皆さん方も、それについては、本当に、夜もねんごとして、恐らく考えて、答弁書をつくっておられて、一方、われわれもそういうふうにして、議会にのぞんでいる。

そういう中でのルールですので、今後、こういうふうなことについては、それなりに考慮をしながら、先ほどの市長の答弁ではないですが、やっぱり、何遍いっても、それで武雄市がうまくいくなら、重複するのは大いに結構だと思います。

しかし、配慮は忘れずにお願いしたい。

モニターいいですか。

田代酒造跡についてですが。

よかですか。

これが田代酒造跡。

この田代酒造跡を、いくらで買ったのか、当時。

ここも含めて、これも含めて、いくらで買ったのかお尋ねします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／信じられません。

要した経費は、合計1億1650万円。

こんな借金まみれの旧武雄市がよくこんなの買ったなと思います。

内訳は、9900万。

維持管理費が530万円になります。

解体費用が

870万円。

買い戻しにかかる利息、350万円なんです。

恐るべき驚くべき数字です。

こんなもん、よく買ったなと、改めて申し上げます。

議長／19番山口昌宏議員

山口昌宏議員／1億1100万…。

1億1650万が買い上げのお金だそうですが、もし、これの…戻しましょうか。

これを、買わないで、この面積、買わないで、固定資産税として、買った日からきょうまでの、年数があるわけですね。

固定資産税で換算したら、いくらになりますか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これも、おどろくべき数字なんです。

700万円です。

議長／19番山口昌宏議員

山口昌宏議員／トータルで、1億2200万ぐらいになるのかな。

そういうことだと、それだけかけたお金の割には、解体して、すでになかごと。

戻して行って…。

そして、最後に残ったのは何か。
これだけです。
見てわかるでしょ。
ここからここまでですよ。
これは、何のために残したのか、理由があつて残したと思いますが、いかがですか。

議長／宮下つながる部長

宮下つながる部長／当初のいきさつから、長崎街道沿いであるということで、長崎街道の景観を残してほしいといういきさつで、購入にいたったわけですが、市民団体、あるいは地元、解体の説明のうちに、長崎街道の雰囲気少しでも残してほしいというような話があつて、そういう強い要望に応えることで、あわせまして、残すことにいたしました。

議長／19番山口昌宏議員

山口昌宏議員／なんかしてやられたごた感じですね。この後ろ。
この建物の何がある。
コンクリートで固めたつかえ棒というか、こんなのがあるんですが、景観上見て、なんのこれが、景観上に…。
ましてや旧長崎街道が残した景観として残るようと。
どこにのこつとうですか、これ電柱ですよ。
当時電柱がたつとうですか。
ましてや、この瓦を見てください。
この瓦は、今の瓦ですよ。当時の瓦は、ほうろく瓦ですよ。
泥瓦の。
ほうろく瓦なら、当時の面影をのこしているといえるが、しかし電柱はあつて、今の瓦があつて、長崎街道の面影が残っていると思いますか。
答弁願います。

議長／樋渡市長。

樋渡市長／すいません、思いません。

議長／19番山口昌宏議員。

山口昌宏議員／本当は、こんなのを入れとつた、ここまで。

これは裏のつかえ棒です。

もしこれをどこかに売るとする。

売るとすれば、金かけて、何百万かけたかは知りません。

知りませんが、それを売るとしたら、解体費用をつけてさなばいかんですよ。

ましてや、これだけのコンクリートをうめとうとやけん。

そういうふうな面で、これをこの裏の部分について、例えば、土中に埋めてしまって、見えないようにしておれば、なんとか景観としてもそこなわんかなと思うわけですが、全く配慮がなっていないですね。

いわれたけんが。

というような感じにかとれんですよ。

それともう一つ、この建物、これだけでいくらかかったんですか？

議長／宮下つながる部長。

宮下つながる部長／この塀については、もともと塀が田代酒造の建物、いわゆる売店と倉庫と3棟があってそれにすりあわせるように塀があって、それを残してほしいということでしたので、つかえ棒については費用から計上しました。

ただしそのつかえ棒が鉄骨でできているとか、景観が裏にまわれれば景観を配慮していないという現状については、配慮が足りなかったと思っています。

議長／19番山口昌宏議員。

山口昌宏議員／このずっと前にさかのぼれば、これを買うときに、牟田議員が反対したと。

なんでかわんばならんと。

田代酒造が若木の***。

なぜそれを保存せんといかんか。

そのほうが保存価値があろうもんと。

当時、牟田議員が反対したと。

そういうことで、例えばこの米(?)をつくった景観として、こんなことをいう議員も。

長崎街道塚崎宿と書いてあるでしょ。

そこで考えないかんのは、今ですね、長崎街道ブームなんです。

土曜日曜は、うちの前がぞんぞんこともいきません。

けれども先週の日曜日は、20、30人くらいが長崎街道をずっと通っておられます。

家の前に長崎街道からどこさいくですか？と。

次の次の信号を左さのぼったところの言い方で教えた。

のぼって行って、峠を越えたところに、長崎街道があったと。

そこに行きたいと。

しかし、標識がないからいかれない。

こいだけの、しょうもないものを作る金があったら、長崎県は道標はあると。

長崎県の県境まで。

佐賀県に入ったら道標はないと。

このお金をかけたらいくらつくれるか。

数、数えてみますか。

うちのといったらおかしいですが、東川登の押しボタン式の信号があるが、オノ医院に行くところの。

押しボタン式の信号機から学校のほうに入ったら一番手前が桶屋さん。

その次がコンニャク屋さん。

その次が仏壇屋さん。

その次がこうじ屋のなんとかさん。

その次が精米所のなんとかさん。

そういうふうな昔の長崎街道の面影が全部残っている。

こういうふうな金をかけるのがあれば、道標などをつくってはいかがですか、その辺はどうですか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これはまず、解体費の 870 万円で何本たつか試算しました。

だいたい 1 本相場で 12 万円。

そうすると割り算すると 72 本。

この議論を聞きながら、深く反省しています。

議長／19 番山口昌宏議員

山口昌宏議員／反省はなんであろうと、だいぶまえですが、なんとかでもできるという話ですが、そこでもう 1 回反省をしていただきたいのは何か。

5000 平米近くあるのに、約 5 反(?)。

この土地を 1 億 2000 万も 3000 万もかけて、今更地になった。

あとなんばしよとですか？

議長／宮下つながる部長

宮下つながる部長／これについて、議会の議決をいただいて、解体の予算議決をいただき、

解体したところですが、今後の方向性については現在、オルレコースも活用されていますが、そういう歴史的な位置づけも考えて、さらに売却も含め、検討してまいりたいと。市長は、検討しないと申していますが、研究をしないと方向性が決まらないので、さらに研究をすすめたいと思っています。

議長／19番山口昌宏議員

山口昌宏議員議員／昔、田中角栄さんの秘書、あの人の本の中に、かごに乗る人、かつぐ人という本があるんです、その中に、議会で検討をするというのは、しないということだそうです。

そがんかいとったけんが、私がいつか言ったことですね。

しかし、これを今のままの状態で仮においとったら、オルレコースといたって、ここはあとですよ、ということですよ。

早く来るような段取りをしないと、武雄市はお金がないと。

これを売ることによって、固定資産税になる。

いくらかになるということで、本当に例えば、駅の南口の、今回売れましたあの土地だって、ほかだったら9億円くらいまで上がったんですよ。

これをこのまま、残しとって、武雄市にとっていいことがあるのかなのか、おたずねをしたいと思います。

議長／樋渡市長

樋渡市長／本当、私、人のせいにするのは、基本的に嫌いなんですよ。

やっぱり、政治家は責任をとらないとだめ。

当時の議会は責任とってほしいです。

この負の財産が1億2000万強、これがわれわれに負の財産としてきている。

私どもとしては、これがそのままだと、なにもいいことはありません。

そのままにしておくと、犯罪が。

暗いですよ、夜。

僕もここジョギングすると、危ないなと思って。

そこに何らかの建物が建って。

先ほど、議員のご指摘のとおり、固定資産税等が入ると考えた場合、私は売却がひとつの大きな方向性だと思っていますし、この地区あるいはさまざまなことを考えると、市民価値が上がると確信しています。

いずれにしてもこの部分については、わかりにくいじゃないですか。

武雄温泉から近いといえども。

おそらくこの議会、かなりの方がご覧になられていると思いますので、不動産事業者を中心として私どもとしても、相談をしたいと思います。

議長／19番山口昌宏議員。

山口昌宏議員議員／あその土地をある不動産屋とお話をする機会があつて話したら、マンションには全く適していない。

なしてかなって思ったら、1番の原因は、あそこ道が狭い。

それが1番の原因だった。

武雄市役所に移転して、早めに、あその道路を広くしたら売れるはずだが、いろいろな手立てを考えたら、早く売る方向。

要するに、負の財産として武雄市が抱えないような方向性を持って行政としても頑張りたいと思いますので、次にいきます。

次は、市道行政について、ということで出しています。

市道行政について、ということで、出しておりますが、この市道というのは、例えば国道から県道、市道に戻してもらったのではないですね。

県道を市道にもらった部分は1つある。

その例として、ありますよね。

もう1つは、市道は例えば17mの市道だって、市道ですから。

この市道ありますよね。

もう1つは、従来の市道といえ、あえて市道といえ、市道でしょうが、小さな市道。

もう1つは、農道。

従来、農道として使っていたものを市道になった。

もう1つなんですか、というと、高速道路の国道を市道に編入した。

この5つあるんです。

市道の中にも。

ということは、17mの市道から、2m未満の市道まである。

そういう中での舗装構成は、どういうふうなことを構成として、されているのか。

これは、道路によって軟弱地盤だったり、硬い所があったり、あるでしょうが、基本的なものとして、どれくらいの舗装構成があるのか、まずお示しいただいて質問に入りたいと思います。

議長／森まちづくり部長

森まちづくり部長／舗装の路盤の厚さということで、モニターを用意していますので。

先ほど、おっしゃったように、舗装の厚さというのは、地形の状況あるいは基礎地盤の状

況、交通量の多さによっても違いますが、大型車が多い道路、この道路につきましては、50cmの厚さということになっています。

その他の市道ということで、約30cm、農道では、約24.1cm。

林道では、22cm。

市道として管理している道路は、こういった形で実際になされているとは、言いきれないとは思いますが、こういった形になっております。

議長／19番山口昌宏議員。

山口昌宏議員／本当に、見てわかるように、基本的にはこうでしょう、と。

こんなもんですね。

ところが、昔の市道あるいは農道は、クラッシャーラン***抜きで、真っ直ぐ行くところがいっぱいあるわけです。

私が何を言いたいかと言えば、きのうも吉川議員の質問の中にもあったように、今、車の、例えば主要道路って思っても、ここが車が少なくなって、農道と思っていたところに車がどんどん行きよる。

生活体制が変わっとうけんが、通行量も全然違うような方向に行きようですね。

そこで考えないといけないのは、例えば農道。

その農道がいつの間にか市道になってる。

市道になってるが故に、通行規制がなかなかできない。

田植えのときは、なるべくここ通ってください、と書かれているような状態ですよ、実際問題として。

ここを車がおる。

もげて、点検補修では間に合わなくて、事故がある。

事故があったら、執行部の皆さんどうしますか。

事故があったら、あなたたちは、保険にかかっているから、保険で処理をします。

そして、議会の中で、専決処分でしたと。

今後このようなことが、ないように、注意していきたいと思います。

それで終わるんですよ。

今まで何十ぺん、私が議員になってから、その道路に関しての、質問の言い忘れ、何十ぺん聞いたことか。

ということは、今の道路状況を把握しながら、例えば、農道であったのを市道に編入した。

高速道路の側道であったのを市道に編入した。

しかし、その場合、車の通りが多すぎるから、舗装構成を見直さないといかんという状況の道路がいっぱいあると思います。

今の武雄市の財政状況の中で、全てをいっぺんにしなさいとは、言いませんが、優先順位

をつけて、やる気があるのかないのか、そのへんのところについて、お尋ねします。

議長／森まちづくり部長

森まちづくり部長／舗装枠の計画については、議員おっしゃられるとおり、交通量の予測、あるいは基礎地盤の状況、経済性、変動の環境等を考慮しながら舗装をやり直しているところですが。

農道が、市道になったからといって、すぐにはできない状況でして、補修の折に、正規の舗装に変えているということでやっていきたいと思います。

議長／19番山口昌宏議員

山口昌宏議員／今は、市長は、やる気はありますけど、***はありませんと。

十分わかっているけれども、もし本当に、死亡事故等があったら、やる気はあっても、金がありませんでは済まないときがある。

例えば、こんなことがあった。

例えば、「止まれ」の表示がありますね。

これが公安委員会やけんが、止まれの表示は書かれませんかという話である。

頭にきたけん、これは教育委員会だったんですが、あなたたちは、そしたらここで事故があつて、亡くなったらどうするんですかと、言った。

亡くなって、本当に亡くなった、そこで。

2日後に止まれの線が入ったんです。

まさにこれは、お役所仕事なんです。

事前にできることがあれば、事前にしてほしい。

それが市民の願いなんです。

でしょ。

そういう中ですら、市長は、こういうことについて、どういうふうな思いで、走っておられるのか、走るだけならば、うちの犬でも走る。

ちゃんと武雄市のことを見ながら走っているのか、その点についてお尋ねします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これは、切実な問題だと認識してしまして、前、私が、フジテレビの報道 2001 にライブで出たときに、こういう話があったのが、今から武雄市の農道とか、市道とかいろいろあるじゃないですか。

それを全部舗装し直すのは無理なんです。

ですので、ここは選択と集中で、通らないところは、橋も含めて、封鎖して、その分だけ、通るところについては徹底的に先ほどご指摘があったように、舗装をしないといけない。ここで大事なのが、議員さんです。

やっぱり全部直して、と言われるんです、どの地区においても言われます。

特に、古川 盛義さんは頷いているので、切実な問題かもしれませんが。

議員さんが、ここは閉鎖するたび、ここは修繕しましょう、というようなことになろうかと思しますので、しっかり、その直す部分について、しっかり予算をつけていきたいと思っています。

その比較を議員さんと、私どもと二人三脚で、洗い出しをする必要があるだろうと。

場所は言いませんけど、あるところで、走っていたら、私が走っただけでひび割れたところがあった、アスファルトで。

これはさすがに、そのあとで、車が通ったらどうしようかと思って、聞きました、私。

ここで、ひと月くらい車通っていないって言われて、そういうところもあるんですよ。

ですので、事務方に言いましたけど。

そういうところもあるので、ぜひ二人三脚で、1回洗い出しをして、修繕すべき所は徹底的にします。

そして、これはさまざまな議員さんにお答えしていますが、新たな道路を造るよりは、今あるものをしっかり修繕して息長く使うということなので、石橋はたたかずに渡ろうと、このように思っています。

議長／19番山口昌宏議員

山口昌宏議員／石橋をたたいて渡るのは、結構かと思いますが、西川登にコタニという部落があるんですけれども、ちょうど真ん中らへんですか。

元酒屋さんがあって、橋があるんですが、橋をたたいたら、折れるかもしれません。

その橋は叩かないでください。

あるいは下を見たら、修繕を今すぐにでも、という状況になっているので、石橋たたかないでくださいよ。

そういうことも含めて、例えば、東川登の、いつも言っているのですが、東川登のことを言って、恐縮ですが、そこにはよそにない道路があるんです。

それは何かというと、高速道路の側道なんです。

それは、さっきの舗装構成でいえば、農道、こんなもんですよ。

そして、とうとう、うちの区長さんが我慢ならんで、草刈りしません、と言われました。

それは何か。

市からの補助が、本当に雀の涙ぐらいの油代なんです。

そして、片方はフェンスが貼ってあるので、草刈り機で草刈ろうと思っても、草刈り機の

刃がもてないわけです。

そういうことで、とうとう区長さんが断られたという経緯があったと思います。

そこで、今まで、緊急雇用対策事業というのがあって、その事業の補助金で職員さんを雇って、草刈り等々されておりましたね。

それがなくなって、今武雄市の単費で職員さんを、雇って、されておられますね。

あの方たちの処分を含めて考えてやらないといかんとと思いますが、本当に助かっているんです。

これが、例えば、県の道路の維持管理費を、武雄市周辺全てを見たら、とても今の職員さんの努力を見よったら、それこそ何百分の一、何千分の一のお金でできているんですよ。

今後、あの方たちの処遇なり、今後どうするのかというのは、どのように考えられるのか、御答弁願います。

議長／樋渡市長

樋渡市長／私も、ランニング中にその作業を拝見したこともあるし、お声をかけたこともあります。

一方で、先ほど山口議員からご指摘があったように、本当にありがたいと地区の皆さんから伺ったこともあります。

ですので、そういうことを考えたときに、ぜひ、条件の見直しを含めて、雇用の継続をはかりたい。

いずれにしても、われわれがやると、市民負担なんです。

ですので、議員さんのお給料も、私どもの、特別職、そして一般職の職員のお給料も全部出所は一緒なんです。

総人件費ということで、もう一回洗い出しをして、その部分で適正に、これについては、配分をしていきたいと思っております。

いずれにしても総人件費でしっかりやっていきたいと思えますし、私個人としては議員さんの報酬など、よくやっていただいています。

そうじゃない人もいますが。

職員についても本当によくやっています。

それを考えると総人件費が、今度から団塊の世代の方々が一斉に辞めるじゃないですか。辞めますよね。

ですので、その分だけ、行革になりますので、総人件費を減らしながら、そういった雇用を確保するというのは可能ですので、そこに舵を切りたいと思います。

ご指摘ありがとうございます。

議長／19番山口昌宏議員。

山口昌宏議員／いずれにしても高速道路ができた、今度新幹線ができる。

そういうことで、例えば道路にしても水路にしても水の流れが変わったり、道路が、家が出来るところによって使用する道路が全く変わったというのが、いっぱいあるんです。

そんな中で今後、なるだけといたら、おかしいですが、今後このようなことがないように、努力します、じゃなくて、やっぱり路線を決めて主要道路、主要道路というのは使っている道路です。

大きい道路が主要道路ではない。

周辺部は合併して良かったり、住みよくなったとって、はじめて合併が成功したと言うことなのでその辺を考えながらやっていただきたい。

次、モニターお願いします。

実は、きのうびっくりした…。

出したくなかったですが、これは武雄青陵中学校生徒指導部からの、武雄青陵中学校の生徒指導部とあります。

図書館の利用についてと来ていました。

きのうの新聞に、載っていました。

何で載っていたかというと、武雄市の図書館は、ここに商業施設としての部分とある、飲食コーナーがあるから、ということを書いてありました。

だから、登下校の際は、行ったらいかんよと。

そこで、私も時々行きますが、4番議員さんにもお尋ねしましたが、佐賀の市立図書館は飲食コーナーなかと？と聞いたら、飲食コーナーあるよと。

伊万里は？

飲食コーナーありますよと。

ということは、何がいかんのか。

スターバックスの、大きくします。

ここになんて書いてあったかな。

スターバックスの飲食コーナー等も併設されているのでダメですよと。

スターバックスじゃなくて、他の企業がそこに飲食コーナーがあったらいいんですか、ということなんです。

普通に、こういうことなんです。

登下校の際に行ったらダメよと。

こういうのを見たとき、市長として、この図書館を自分の思いの中でつくった図書館を、こういうことで出たときに、どう思いますか。

議長／樋渡市長。

樋渡市長／情けないと思いました。

議長／19番 山口昌宏議員。

山口昌宏議員／そしたら、私がきのう朝、ある人を通じて県の教育委員会にお尋ねしました。

お尋ねしたのに、きのうのうちに、こういうふうな武雄青陵中学校から出てるんです。なんて書いているか。

武雄市内の学校であり、諸般の事情に鑑み、諸般の事情とは？

諸般の事情というのは、県の教育委員会がはじめて知って、教育委員会から言われたから、OKになりました、ということです。

なお、夜間に及ぶ利用や飲食コーナーの利用については保護者の責任のもとでお願いいたします、と。

まあ、わからんじゃなかですね。

ただ、私も高額納税者じゃないが、高額に本は買っているつもりです。

夜間に例えば、お父さんなりお母さんなり、迎えに来る。

今は送り迎えがほとんどですから。

そういう中で高校生が図書館に来る。

武雄高校生が。

中学生じゃない。

あそこで、お父さん、お母さんの迎えが来るのを待っている。

あそこは電気がついて、明るい。

逆の場合がある。

お父さん、お母さんがくる。

先行って、図書館で待ってるからきんさいね、というのもある。

そこで、あそこで図書館におることが、悪いような書き方をされている。

何らかのトラブルに巻き込まれるなど。

そういう中で、今回、都会から代田さんという教育監を迎えました。

その大都会の代田教育監がこういうふうなことについて、都会の考えはまた別の考えがあるんじゃないかと私は思います。

そういう中で、代田教育監どのような思いで考えているかお尋ねします。

議長／代田教育監。

代田教育監／まず、公立の中学校なので、こういった問題については都会と田舎であまり変わりはないと思います。

それで、常識的に考えて図書館ですから、スターバックスがあるので、利用制限するのは、常識的からいっても、かなり厳しい、良くない判断だと思います。

私も学校現場に、中学校に5年いましたので、こういう判断がなされるような、裏事情の生活指導があったとは思いますが。

いろんな問題があったから、こういうふうなことが出てしまったと思うが、それにしても、学校全体でこういうルールをつくってしまうのは良くないと思います。

ただ、この場なので申し上げますが、これは青陵中学校の学校教育活動を否定するものではないので、きのうもネットを見たが、青陵中学校の活動自体を誹謗中傷する書き込みもあり、学校現場にいた人間としてはこれを保護者が読んだらという気持ちになると、いたたまれないというか、心苦しい思いをしています。

そういう意味で言うと、私も青陵中学校の合唱コンクールを見るとすばらしい。

活動自体は損なうものじゃないので、これを機に、倍以上に自信を失わずに、生徒の皆さんにはがんばってほしいと思います。

以上です。

議長／19番山口昌宏議員。

山口昌宏議員／さすがに教育監ですね。

結局これは子どもたちが悪いんじゃない。

それを見守る、学校であり、父兄でありが、今後やっぱり考えていかなければいけない問題だと思います。

そういうなかで、最後、市長がこのことについてどのような思いで今後を見守っていかれるのかをお尋ねします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／私は、学校が大嫌いでした。

やっぱり、そういうことです。

押さえ込むというか、抑圧するとか、自由を考えさせるのを与えないというのが、学校の1つのですよ、何というか、1つのパワーだなと思って。

それに僕は、今思えば、激しく反発したと思うんですね。

ですので、それもなおかつ、最後のところにね、今度新しく…出してもらって。

方向転回、方針撤回については、これは率直に歓迎をしたいと思います。

これは偉いと思います。

早かったです。

これは多分ですね、県の教育庁が、ものすごい危機意識をもっておっしゃられたと聞いて

いますので、これは私は率直に歓迎をしたいと思います。

ただし一方で、わかんない言葉は使わないほうがいい。

諸般の事情に鑑み、ってわかります、これ？

諸般の事情に鑑みですよ。

言葉の三重苦っていいます。

それとなおかつ、最後の夜間の利用は保護者の責任で…とか、こんなこと書かなくていい。

これこそ、やっぱり保護者も考えるし、児童生徒も考える話なので。

ここにも、管理したいんだな、気持ちが出ているというのが、十分にわかります。

その点、武雄市の武雄中学校をはじめとして、そんなことないです、うちは。

何ですか。

私語は慎んでください。

ですので、そこは考えるべきだと。

繰り返します。

単に青陵中だけの問題だけじゃなく、日経新聞の社会面にも載ったらしいんですね。

全国にも報道されているので、考えるいいきっかけにもなったと思います。

代田教育監からもありましたように、これをもってね、青陵中を全部を否定しているわけではないんですよ。

素晴らしいところも多々あるので、これは自信をもってやってほしいと思っていますし、かつ、最後にしますが、このように迅速に方針を転換していただいたことについては感謝をして、評価をしたいと思います。

きのう、校長先生に会いましたけど、とってもいい校長先生でした。

副教育長もお見えになりましたが、とっても素晴らしいと思いました。

そういうお気持ちがちゃんと伝われば、さらにいいのかなと思っています。

いずれにしても、議論を巻き起こして、良かったなというふうに思っています。

議長／樋渡市長。

山口昌宏議員／いずれにしても、学校現場のことですので、例えば、学校の先生というのは、子どもたちに教えるときに素直な子どもになりなさい。

言い訳はせんで、素直な子どもになりなさい、消されたばってんが、素直な人間になりなさい、という話なんですね。

そういうことでしょ。

われわれ武雄市も、今から先、いろいろな課題、問題を抱えています。

そういう中で、市長を先頭に、われわれも一生懸命頑張らないといけないと思っておりますので、今後、こういうふうなことはなるべくないような、良い環境の中で、良い子どもたちが育てるような世の中にさせていただきたいと思いつつ、一般質問を終わります。

議長／以上で、19番山口昌宏議員の質問を終了させていただきます。